中国みたまま感じたまま ①

中華人民共和国を〝友好訪問〟して

志田 保

市長が先ごろ、中日友好協会の招請を受けて訪中しました。このときの「中国見たまま感じたまま」の訪問記を、市長から特別に寄稿してもらいました。今号から数回にわたって連載します。

＊　＊　＊

私は、中日友好協会の招請を受け、去る四月十九日から二週間の日程で「日本海沿岸自治体首長第一次友好訪中団」の一員として、中華人民共和国を訪問してきた。

訪中団は、団長（山形県知事）と、新潟、山形、福井の各県から四名ずつの市町長、報道関係者ら総勢十九名で県内からは、新潟市長、村上市長、村松町長、そして私を含め四人が選ばれ同行したものである

滞在中にあっては、中国外交部の王暁雲先生をはじめとした中国側の主だった関係機関責任者の心あたたまる大変な歓迎を受けた。訪中は、十二年ぶり二度目の経験であるが、各々の分野にわたった中国のありのままの姿を見聞することができ、私にとって大きな収獲だった。

今後ともこれらの体験と認識をふまえながら、明るいくらしのあるまちづくりに生かしていきたいと思う。

以下、中国みたまま、感じたままを、私なりの拙文で綴ってみた。

中国の主な訪問日程

（4月）

19日…羽田空港から大阪・上海を経て、午後3時（中国時間）北京に着く。中日友好協会歓迎レセプションに出席。北京飯店泊。

20日…清華大学を見学、北京市革命委員会及び遠洋運輸公司を表慶訪問。汽車で天津へ。

21日…大港油田を見学、人工砂利製造工場を参観。泊。

22日…汽車で北京へ戻る。国貿促を表慶訪問、午後から中日友好協会と懇談。

23日…万里の長城、人民大会堂を参観、李素文女史と公式会見する。

24日…地下ごうを見学後、空路西安へ。興慶公園、大雁塔を参観、陝西省革命委員会と会見。

25日…小雁塔、始皇帝陵、人民劇院では歌舞を参観。

26日…博物館を参観。空路上海へ。上海革命委員会関係者にあいさつ。

27日…工業展覧館、農村を見る。諸機関関係者と懇談。

28日…華山病院、魯迅故居、少年宮を参観。

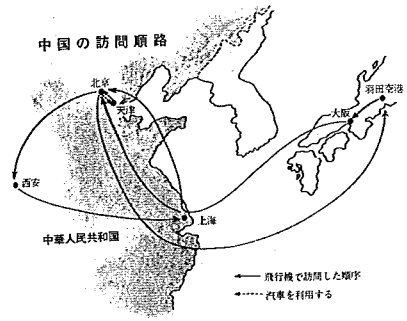
29日…馬橋人民公社、上海港務局第9荷役作業区を参観。

30日…西郊公園、動物園を参観、空路北京

（5月）へ戻る。故宮参観、答礼宴。

1日…首都メーデー祝賀行事に参加、花火・サッカーを見学する。

2日…11時30分北京をたち、帰国の途につく。



春まっ盛りだった中国大陸――＊

四月十九日の朝、我々訪中団一行は、羽田空港から大阪そして上海に翼をいっとき休め、中国時間の午後三時ちょうどに、予定どおり北京に到着した。日本との〝時間差〟が一時間遅れ、首都北京から中国入りの第一歩を踏み出した。

空港には、中日友好協会副会長の王芸生先生をはじめ、同秘書長の孫平化先生など中国側の主だった関係機関の責任者のみなさんが、わざわざ出迎えてくれていた。一行はさっそく用意された車で宿舎となる北京飯店に向ったが、この車窓からみた中国の山野の美しかったこと。ナシやリンゴ畑が視界一面に広がり、中でも白いナシの木の花が春まっ盛りという感じを与えてくれた。

中国での第一夜は、北京飯店で中日友好協会の廖承志会長主催による歓迎レセプションを受けたが、ここには中国外交部の王暁雲先生も出席されていて、きさくに懇談の機会を得ることができた。

中国の広さは日本の二十六倍――＊

中国は、知っての通り広大な面積を擁し、ヨーロッパ全体にほぼ匹敵する広さで、日本の二十六倍にもあたるという。人口は八億ちょっと、日本の八倍弱だが、世界一の人口が示す如く、どこへ行っても人間があふれているといった具合いで、日本の大都市に似た〝人口の集中さ〟が感じられた。

北京は中国の首都で、国直轄の特別市となっている。人口は約八百万、規模では上海に次ぐ中国第二の都市である。

古くは遼・金・元・明・清などの王城の所在地だった関係で、市の中心にはその跡などが大切に引きつがれていた。有名な天安門もその一つなのだが、その前の広場は式場として使われており、第三門までは車で入れるようになっている。また、市街地の下は、地下鉄が通っていた。

お買物、ご用命は市内で

―サラリーローン―
外に大口も歓迎致します　ただし1口50万円以上です
三恵商事新津出張所
大　橋
電話 3～0358番へ是非御相談下さい
新町1丁目㊧自転車店の直ぐ後ろ

100万円まで信用貸OK
不動産担保貸付大歓迎
㈱朝日企業・・・新津連絡所（大橋）
新町1丁目㊧自転車店直ぐ後ろ　TEL 3－0358へ

市長雑感 (69)

先ごろ私は、中日友好協会の招請を受け、行政執行者の友好訪中団の一員として、歴史的にも深いつながりがあり、最も身近な隣国である中華人民共和国を、二週間の日程で訪問する機会を得た。

〝市民の足〟は自転車で、みどりも豊富――＊

市内には〝市民の足〟としてのトロリーバスと、おびただしい「自転車」が走っていた。中国では、自転車のことを〝軽便自行車〟と呼ぶそうだが、日本の〝車ラッシュ〟になれているせいか、自動車の少ないのには驚かされた。

自動車というとトラックがほとんどで、乗用車は公用車しか見られない。それも道路の真中辺を走っていた。資材の運搬には、トラックのほかにロバとかラバといった五頭だての馬車も使われていた。

しかし道路は、狭いところでも十五～二十メートル、ちょっと大きな通りになると五十～七十メートルもの幅があり、それもほとんどが舗装ずみ。〝少ない交通量と大きな道路〟の中国は、日本の「交通戦争」なんていう言葉はまったく通用しない。

豊かなみどりも印象的だった。延々と続く街路樹の列が通りに面した建物群をおおい、健康的な都市の美観をみた。

「広い国土であっても、緑の保存、植樹、公園づくりは熱心に取り組んでいる」と聞かされ感心した。

北京市革命委員会を表慶訪問――＊

北京での二日目（四月二十日）は、清華大学を参観し、北京市革命委員会と遠洋運輸公司を表慶訪問した。

中国の地方行政組織、つまり地方の各級人民委員会（地方人民政府）は、国務院（中央人民政府）の統一的指導下にある。大別すると、例えば「省・自治区・直轄市」とか「人民公社」など、いくつかにわかれており、北京・上海、天津の三市が、現在では中央直轄市となっている。

一行が表慶訪問した北京市革命委員会は、日本ではさしずめ国直轄の市役所といった自治体機構であり、遠洋運輸公司は、国営の船を管轄する遠洋航路の船会社といったところである。市内にある清華大学では、同図書館も見学し、中国の教育制度などについて、いろいろと話しを聞いた。

働きながら能力ある人だけが大学へ――＊

中国での教育制度は、小・中・大学（高専）とあるが、普通、中学校を卒業すると、農村や工場へ行っての勤労が義務づけられている。もちろん勤労の報酬としての月給制であるが、〝もっと勉強したい〟という人がいても、大学への進学はなかなか難かしい。

それは、労働（中学校を卒業して農工業に従事するかたわらその技術を修得している）に従事している二年の間に、何回かの実働から得たテストを繰返して、その人なりの能力を見極め、健康で優秀な人だけを推せんして、大学への入学を許可しているからである。だから中国の大学は、日本の大学と違って〝少数精鋭主義〟ともいえる。

中国の大学は（大学ばかりではないが）、学生の中にその科目（問題）をよく知っている人がいれば、講師ともなっていっしょに考え、研究し合う。そしてすべての大学生は、農村あるいは工場へ行って、働きながら生産労働に結びついた学習に余念がない。もちろん全寮制であるが、毛主席の「思想教育と技術教育」の結合に大きな特色をみることができた。

（つづく）

中国の歴史を見る、北京の天安門

豊かな国づくりにたくましく

県議当時、訪中団の団長として渡航して以来、ごんどが実に十二年ぶりの訪中であったが、われわれ首長団を迎えてくれた歓迎ぶりは大変なものであった。

中国は、自然のふところが大きく、芸術的文化遺産が香り高く残されている偉大な大地で、日本との交流は、古くからたとえようもなく深い。

現在では社会主義という異なる体制の中にはあるが、十二年前のイメージとはうらはらに、国民生活は安定し、国と国民とがいっしょになって、豊かな国づくりにたくましく生きる中国の姿を、かいま見ることができた。

北京・天津・西安・上海と各都市のかけ足訪問だったが、首都北京では、豊かなみどりと大きな道路が、なんとも心に残った。ポプラ、ヤナギ、プラタナスなどの木々が広い野や道路をおっており、どこでもが公園という雰囲気で、健康的な都市そのままだった。

天津では、石油の埋蔵量が無尽蔵だという地下資源の宝庫を、また、いくつかの塔の礎石など、古い時代のまちの跡が大切に引きつがれている古都、西安。そして中国のたくましさと活気さを印象づけてくれた大都市上海。毛沢東主席の思想があらゆる分野に生き、この革命路線に国民全体がよどみなくうち込んでいるありのままの中国があった。平和を愛し、男も女も同じように働き活躍しながら……。

できたらこんどは、心ゆくまで訪ねてみたい。もっとよくわしく中国を知るためにも…。

志田 保

お買物、ご用命は市内で

MEN'S LADY'S フォーマルウェアー
クールなサマー6ツ釦 ダブル 50,000円
オールシーズン6ツ釦 ダブル 46,000円から 52,000円
ヤングアダルト6ツ釦 ダブル 52,000円
ヤングスリーピース 43,000円
男の服 いつちだ 本町2 (4)0648
ファッション MiMi 本町2 (4)0658

エアコンで夏を快適に
いまなら全品種揃っています
新町2丁目
田村電機商会
TEL 2-0653